

委員長コメント
(平成20(2008)年エイズ発生動向の概要について)

【平成20年 年間報告(確定値)】

【概要】

1. 今回の報告期間は平成20年1月1日から平成20年12月31日までの1年
2. 新規HIV感染者は1,126件で過去最高〔資料1、資料2参照〕
3. 新規AIDS患者は431件で過去最高〔資料1、資料2参照〕
4. 合計は1,557件で過去最高(一日あたり約4.3件)
平成19年(確定値) HIV感染者1,082件、AIDS患者418件、合計1,500件。それまでの最高
5. 新規患者報告数に占めるAIDS患者報告数の割合は27.7%で低下傾向〔資料5参照〕

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：〔資料1図4、5、6、資料2、資料3参照〕
同性間性的接触によるものが779件で過去最高(全HIV感染者報告数の約69%)
異性間性的接触によるものが220件で過去3位(全HIV感染者報告数の約20%)
年齢別では、特に20~30代が多いが、40代以上も前年より増加
2. 新規AIDS患者：〔資料1図10~12、資料2、資料3参照〕
同性間性的接触によるものが189件で過去最高(全AIDS患者報告数の約44%)
異性間性的接触によるものが147件で過去4位(全AIDS患者報告数の約34%)
年齢別では、特に30代以上に多く、50代以上で大幅に増加

【報告地別の概況】

1. 新規HIV感染者：〔資料1図15、資料4参照〕
東京都を含む関東・甲信越ブロック及び近畿ブロックにおいて増加傾向
特に東京都と大阪府からの報告の増加が顕著
2. 新規AIDS患者：〔資料1図16、資料4参照〕
東京都を含む関東・甲信越ブロックからの報告が特に多い(47.1%)が、横ばい傾向
他の地域は増加傾向

【まとめ】

1. 平成20(2008)年におけるHIV感染者とAIDS患者の報告数はそれぞれ過去最高となった。
2. 日本国籍男性を中心に国内でのHIV感染の拡大が続いており、特に同性間性的接触による感染は顕著な増加が続いている。
3. 全年代で新規HIV感染者報告数は増加傾向であり、50代以上の年齢層では、AIDS患者報告数も増加している。
4. 前年に比べて、HIV感染者では、北海道・東北ブロックと東海ブロックを除く各ブロックで、AIDS患者では、北海道・東北ブロックを除く各ブロックで増加している。
5. 地方自治体等の関係者の努力によりHIV抗体検査件数は過去最高となり、感染者・患者報告数に占めるAIDS患者報告数の割合は低下傾向である。
6. 各自治体においては、エイズ予防指針を踏まえ、個別施策層(特に男性同性愛者)に加え、中高年齢層等の特性に応じ、利用者の利便性に配慮した検査・相談事業を推進し、予防に関する普及啓発に努めることが重要であり、HIV感染の早期発見による適切な治療の促進と感染拡大の抑制

に努める必要がある。

- 7 . 国民はH I V ・ A I D S についての理解を深め、身近な問題として積極的に予防に努めるべきである。早期発見は、個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、H I V 抗体検査・相談の機会を積極的に利用していただきたい。

なお、平成 20(2008)年エイズ発生動向年報の詳細については、7 月下旬に年報を公表予定である。